

成果品イメージ

スマートシティ伊勢推進構想1.0

草案(R050823版)

人と人がデジタルでつながる
~People Connected by Digital~



令和 年 月

スマートシティ伊勢推進構想の策定にあたって(Bing AIによる仮文)

伊勢市は、神宮林や清流宮川などの豊かな自然に恵まれており、古くから神宮が鎮座するまちとして栄えてまいりました。さらに、先人たちが守り続けてきた自然や伝統、神宮を訪れる旅人をもてなす文化が根付くまちでもあり、今も全国各地から多くの方が伊勢を訪れ、賑わっています。

一方で、全国的に人口減少・少子高齢化が叫ばれている中、伊勢市も例外ではなく、各分野で労働力不足に直面しているなど、様々な地域課題を抱えています。

そこで、わたしたちは、産官学民が連携して、デジタル技術を活用したデジタル変革(デジタルトランスフォーメーション)により、サービスの向上、組織運営の効率化及び地域課題の解決を行うスマートシティの実現に向けて取り組むことを決意しました。

そのためには、人と人がデジタルでつながることが重要です。デジタル技術は、単に便利なツールとしてだけではなく、人間の価値観や行動を変える力があります。デジタル技術を活用することで、市民や事業者、行政などが互いに情報や知識を共有し、協働して新たな価値を創造することができます。

伊勢市は、神宮ご鎮座のまちとして、日本の伝統や文化を発信するとともに、デジタル技術を活用して、地域課題に挑戦し、新たな価値を創造するまちとして、スマートシティを実現していきたいと考えています。

スマートシティ伊勢推進構想は、伊勢市の未来を描く大切なビジョンです。

このビジョンを実現するためには、市民や事業者、行政などが一体となって取り組むことが必要ですので、ご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、スマートシティ伊勢推進構想の策定にあたっては、多くの方々からご意見やご提案をいただきました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。今後も皆様からのご意見やご要望をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

I 策定の背景・趣旨

- (1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題
- (2) 策定の趣旨
- (3) 伊勢市がこれまでに取り組んできたこと

II 構想の位置付け

III 他の計画との関係と構想の期間

IV 基本理念、基本原則

- (1) 基本的な考え方 ～スマートシティ伊勢で実現していく姿～
- (2) スマートシティ伊勢を実現する上での3つの基本理念
- (3) スマートシティ伊勢の運営5原則

V 取組の方向性

VI 既に実施している取組

VII 推進体制

VIII 今後の進め方・ロードマップ

参考 I 策定経過

参考 II 伊勢市がこれまでに取り組んできた主な取組の紹介

参考 III 用語解説

(1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題

第3次伊勢市総合計画 中期基本計画では、8つの分野横断課題の一つとして、「デジタル技術の活用」を掲げており、伊勢市の現状と課題及び取組方針について、以下のように示しています。

【現況・課題】

デジタル技術の急速な進歩や、多様・大量なデータ流通の進展に伴い、国は誰もがデジタル技術やデータによる恩恵を受けられる社会の形成を推進しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響によるニーズの多様化やデジタル庁の設置等を受け、社会全体でデジタル化の動きは加速しています。

本市においても、新型コロナウイルス感染症によりデジタル化の遅れが顕在化したことに加え、人口減少や少子高齢化の進行に伴う人的資源の不足等、さまざまな課題を抱えています。

限られた資源で、市民サービスの向上や効率的な組織運営、地域課題の解決に取り組むには、地域全体でのデジタル化を推進する必要があります。

【取組方針】

デジタルの活用による暮らしやすいまちづくりを進めるため、行政においては、市民目線での利便性向上やデジタルデバイドへの配慮、デジタル技術を活用した行政サービスの提供やデジタル環境の整備、内部事務のデジタル化、デジタルを活用できる職員の育成等に取り組むと同時に、地域においても、産官学民が連携して教育・福祉・産業分野等における地域課題の解決等に取り組み、地域全体でのスマートシティ化を進めていきます。

【第3次 伊勢市総合計画 中期基本計画より抜粋】

(2) 策定の趣旨

「(1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題」で示した課題を解決するため、地域全体のデジタル化を進めるにあたっては、まずは行政が率先して取り組むことで地域の見本となれるよう、行政内部における推進体制の整備や推進計画の策定を進め、全庁的にデジタル技術を活用した個別施策に取り組む環境を整えることで、市民サービスの向上や、行政運営の効率化を図ってきました。

また、地域全体のデジタル化を進めるため、産官学民が連携して取り組んでいくための場として、市内の様々な分野の団体が参画する「スマートシティ伊勢推進協議会」を設立し、それぞれの個別分野における取組を進めるための体制整備や、実証事業を行ってきました。

これまでは個別分野ごとの取組を進めてきましたが、今後、スマートシティの実現に向けて分野を横断した課題を解決するために取り組むにあたっては、地域が一体となって実現していく共通の姿を示すことが必要であることから、この度、「スマートシティ伊勢推進構想」を策定しました。

なお、本構想の期間としては、デジタル技術の進歩が急速であることから、当初4年間を目途にしながらも、都度バージョンアップを行っていきます。

(3) 伊勢市がこれまでに取り組んできたこと

伊勢市では、行政内部のデジタル化を進めるため、これまでに以下のことに取り組んできました。

- 市長を本部長とする「伊勢市デジタル行政推進本部」の設置
- 全庁的にデジタル化を進めるための計画である「伊勢市デジタル行政推進ビジョン」の策定
- 紙による手続きを原則としていた行政手続きをオンライン化するための条例の制定及び汎用的なオンライン申請システムの導入
- 細やかな情報発信や様々な問い合わせへの自動案内を行うための伊勢市LINE公式アカウントの運用
- 多くの市民が訪れる窓口へのキャッシュレス決済対応システムの導入
- デジタルデバイド解消のための高齢者向けスマートフォン教室の開催
- 業務効率化を図るための生成AIの活用及びAI-OCRやRPAの導入
- 意思伝達、決定の迅速化を図るための電子決裁の原則化 など

それぞれの取組に関する詳細については、巻末の参考Ⅱ「伊勢市がこれまでに取り組んできた主な取組の紹介」にて紹介しています。

本推進構想の位置付け

伊勢市の最上位計画である「第3次 伊勢市総合計画」の基本構想に掲げる、まちの将来像「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」を実現するため、地域が一体となって分野横断課題の一つである「デジタル技術の活用」を進め、スマートシティ伊勢を実現していくための指針として位置付けます。

第3次 伊勢市総合計画 基本構想

まちの将来像「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」

第3次伊勢市総合計画(中期基本計画)

取組方針 「子どもたちの笑顔があふれ(笑子)、幸せに年齢を重ねられる(幸齢)まちづくり」
～笑子・幸齢化のまちづくり～

分野横断課題 ⑤デジタル技術の活用



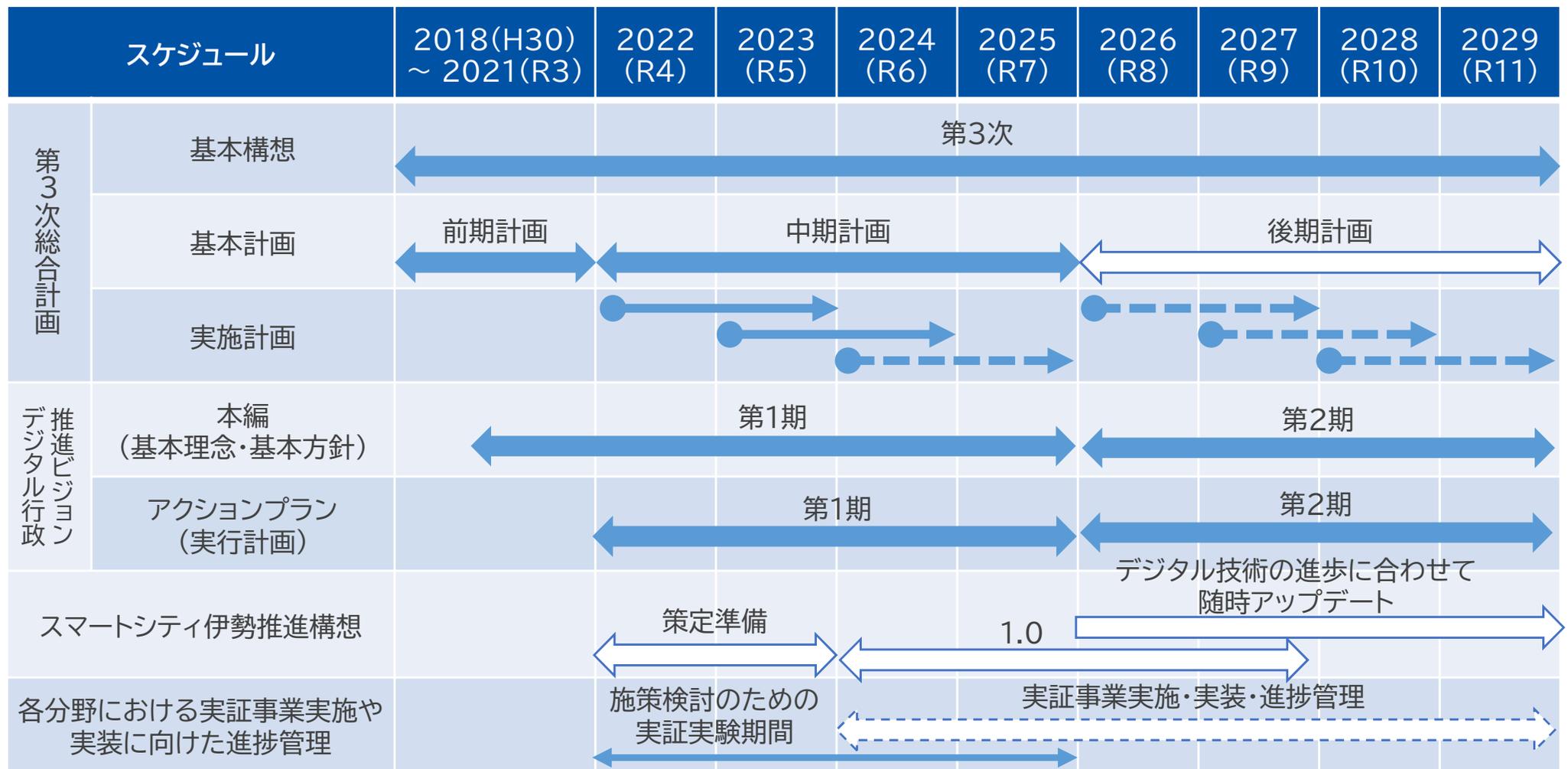
スマートシティ推進構想1.0

地域が一体となって分野を横断した課題を解決するスマートシティを推進するための指針

Ⅲ. 他の計画との関係と構想の期間

関連計画との関係と本構想の期間

本構想の期間は、当初は4年を目途にし、その後はデジタル技術の進歩に合わせて、バージョンアップを図ってまいります。



(1) 基本的な考え方 ~スマートシティ伊勢で実現していく姿~

ミッション
(使命)

デジタル技術を活用し、地域課題の解決を進めることで、「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」の実現を図る

ビジョン
(将来像)

人と人がデジタルでつながる ~People Connected by Digital~

スマートシティ伊勢

全体の
方向性

- ・デジタル技術を活用した市民生活の質の向上
- ・デジタル技術を活用したサービスの向上、組織運営の効率化
- ・デジタル技術を活用し地域課題の解決

スマートシティ伊勢を推進する上での3つの理念

理念①

市民起点、市民
(利用者)中心主義

理念②

共創による新しい
価値の創出

理念③

素早く実践・検証・改善

スマートシティ伊勢の基本5原則

原則①

様々なサービスや組織
が相互に連携

原則②

多様性と包摂性

原則③

安全・安心の確保

原則④

透明性確保

原則⑤

運営面、資金面での
持続可能性の確保

(2) スマートシティ伊勢を実現していく上での3つの基本理念

理念①

市民起点、市民 (利用者)中心主義

市民の要求や課題を起点に、データや技術を解決の1つの手段として活用し、市民の幸福や健康の向上を目指します。

理念②

共創による新しい 価値の創出

市民、企業、大学、NPO 団体、行政など多様な主体が自律的に参画し、組織や分野を超えた共創の街づくりを推進することで、新たなサービス・仕組みを創出することを目指します。

理念③

素早く実践・検証・改善

まずは小規模でチャレンジし、実行・検証・改善を繰り返すことで、求められるサービス・仕組みを創出します。

(3) スマートシティ伊勢の基本5原則

原則①

様々なサービスや組織が相互に連携

○ 民間企業、学術機関、関係団体、市民グループなど、たよようなステークホルダー同士が連携を深め、各者が保有する豊富な知見・データを活かした取り組みを推進します

○ 地域や分野の壁を越えたデータやサービスの連携により相互運用性を確保し、サービスの全体の最適化と新たな価値の創出を図ります

原則②

多様性と包摂性

○ デジタル技術を、あらゆる人の社会活動やまちの運営をサポートするツールとして活用します。デジタルで高齢者、障がい者、外国人、女性をはじめ、すべての人の社会参加を支え、多様で包摂的な社会を目指します

○ 先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、課題解決への寄与など社会的なインパクトを大切にします

原則③

安全・安心の確保

○ スマートシティの実現に向けたサービス設計にあたっては、サイバー攻撃などに対応した適切なセキュリティ対策を講じます

○ 自然災害、不慮の事故などにより情報システム等のサービスに障害が発生した場合でも、最低限の機能を維持しながら、早期に回復できる能力を確保するように努めます

原則④

透明性確保

○ データの流通や活用にあたっては、透明性の確保や市民・サービス利用者の個人情報・プライバシーの保護に十分に配慮を行います

○ 個人情報の保護に関する法令等を遵守したうえで、個人情報の取得・利用にあたっては本人同意を原則とします。

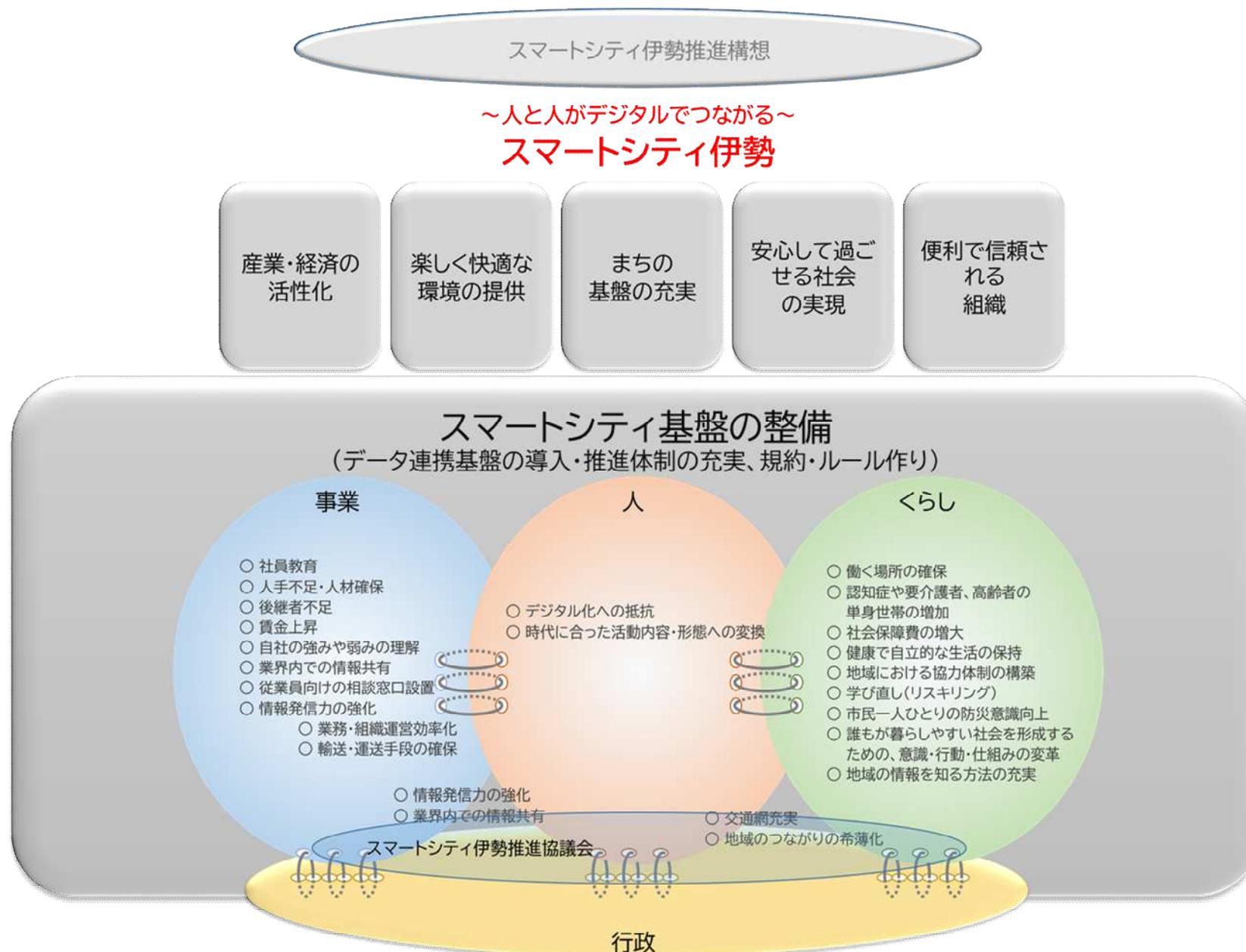
原則⑤

運用面、財政面での持続可能性の確保

○ スマートシティの実現に向けたサービス設計にあたっては、運用面や財政面の両方から持続可能な仕組みを検討します

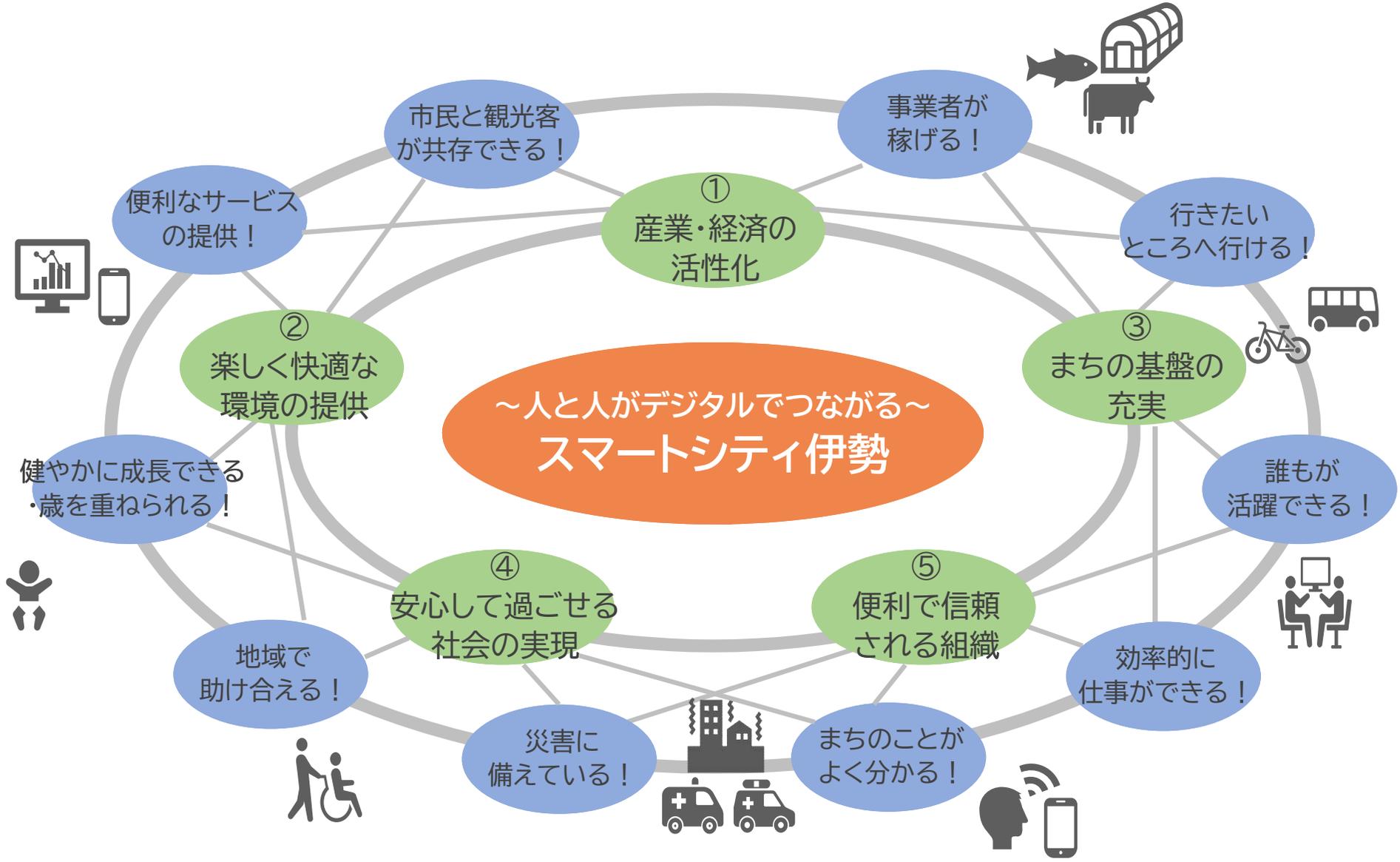
○ サービス利用者、サービス提供者の双方が価値を享受できる仕組みを検討します

構想(草案) あるべきと考える姿 課題解決を目指すための方向性



V. 取組の方向性

(1) スマートシティ伊勢で実現していく姿



スマートシティ基盤の整備
(データ連携基盤の導入・推進体制の充実、規約・ルール作り)

成果イメージ
本日、議論いただきたい事

(2)① 産業・経済の活性化

目指す姿 誰もが行きたいところへ行って買い物ができ、
地元事業者も潤う市民と観光客が共存できるまち

課題	方向性	取組例
<ul style="list-style-type: none"> ○ 社員教育 ○ 人手不足・人材確保 ○ 後継者不足(技術の継承) ○ 業務効率化 ○ デジタル化への抵抗 ○ 輸送・運送手段の確保 ○ 賃金上昇 ○ 自社の強みや弱みの理解 ○ 顧客消費行動、ニーズ、傾向の把握 ○ ブランド化(知名度アップ) ○ 情報発信力の強化 ○ 販路拡大 ○ 販売単価向上 ○ 夜の賑わい創出 ○ 交通網充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若者が1次産業に従事したくなる環境の整備 ○ 地域で生産された農水産物が地元の飲食店で利用され、そのことが消費者に伝わる仕組み作り ○ 一般消費者が手軽に手に入れられる機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動化ツール導入などによる1次産業の効率化(スマート農業等) ・ 若者が目にする飲食店等の SNSでの情報発信 ・ 農水産物直販所などでのリモートシステムを活用した販売・在庫管理

VI 既に実施している取組	4ページ程度
VII 推進体制	1ページ程度
VIII 今後の進め方・ロードマップ	1ページ程度
参考Ⅰ 策定経過	1ページ程度
参考Ⅱ 伊勢市がこれまでに取り組んできた主な取組の紹介	4ページ程度
参考Ⅲ 用語解説	4ページ程度